

挨拶から見られる椛小のよさ

校長 相川 保 敏



朝、正門に立っていると椛小の子どもたちは、立ち止まって「おはようございます」とあいさつをし、お辞儀をして

くれます。引率される保護者の方々も、お一人お一人が挨拶を交わしていただけます。朝から、すがすがしい気分になります。

子どもたちの挨拶を見ていると、一人一人に違いがあります。元気な声で挨拶をする子、少し恥ずかしそうに小さな声で挨拶する子、友達とデュエットで挨拶する子など様々です。一人一人が頑張っている姿がとてもいじらしく感じられます。こうした中、高学年の子どもたちの挨拶を観察していると、立ち止まるだけでなく、こちらをしっかりと見て、きちんと聞こえる適度な声で、軽く微笑んで挨拶してくれる子が何人もいます。挨拶をしなくてという使命感は全く感じられず、自然体でさりげなく、品のあるさわやかで優しい挨拶です。

このような素晴らしい挨拶の仕方を朝会時に紹介しました。すると、次の日の朝には子どもたちの挨拶の仕方が変わっていました。しっかり話を聞いて、すぐに実行に移す素敵な子どもたちに感心するとともに、きっと学級担任の先生やご家庭などのフォローもあったのではなかと推察しています。

「椛小の教育」4ページ、5(2)③基本的な生活習慣の確立に、「家庭と協力して、児童の基本的な生活習慣の確立に努める。また、本学園の伝統を踏まえ、特に『挨拶』、『言葉遣い』、『けじめ』などの指導に留意して、本校の女兒にふさわしい品位ある言動や態度を身につけさせる。」と記されています。学校とご家庭との連携・協力により、高学年の挨拶

に見られるような礼儀正しさと品性が育まれているのだと再確認いたしました。子どものよりよい成長を支えていただけのご家庭、そして教職員にも感謝する次第です。

ところで、私が子どもころも「挨拶は大切だから、しっかりしましょう」とよく言われてきました。挨拶はよりよい社会生活を送る上で必要なスキルであり、協調性やコミュニケーション力につながる「非認知能力」の一つではないかと思えます。

「非認知能力」は、学力やIQといった数値で測れる「認知能力」とは異なり、自制心や忍耐力など数値では測りにくい能力全般を意味します。非認知能力が高いと認知能力も高まるということがいくつかの研究で報告されています。この非認知能力は急に高まるものではなく、家庭や学校といった子どもたちを取り巻く環境の中で少しずつ育まれていくものと言われています。挨拶に見られる高学年の非認知能力の高さも頷けます。今後も個々の子どものわずかな変化や成長を捉え、一人一人あったスピードで育成を進めていきたいと思えます。今後とも、ご協力の程、よろしく願い申し上げます。



さて、5月の月目標は「間をおいて考えよう」です。感情にまかせてすぐ反応するのではなく、ちょっと間を置いて考える時間をもとうという趣旨のめあてです。私たちは余裕がないと「また、〇〇ができていない」と子どもの行動のマイナス面ばかりを固定的に捉えがちですが、落ち着いて見てみると、前と比べ「ちょっとよくなっている点」が見つかることがあります。単に注意するのではなく、小さな頑張りも見つけられる教員集団でありたいと思えます。